

神政連議員懇;安倍会長ら相馬に集ひ御霊の安鎮を祈念

神道政治連盟国会議員懇談会（安倍晋三会長）が主催する東日本大震災物故者慰霊祭は十日午前十一時から雪の降る中、福島県相馬市の有丸太水産跡地に設けられた祭場で執りおこなわれ、終了後には、参列した議員が地元の代表者らから陳情を聴取する連絡会が開かれた。

慰霊祭には安倍会長をはじめ、山谷えり子・有村治子両副幹事長など国会議員、長曾我部延昭神道政治連盟会長など神政連関係者、福島県の神社関係者、立谷秀清相馬市長など地元の関係者、遺族ら地元住民あはせて約四百人が参列した。

祭典は福島県神社庁相馬支部（岩崎和夫支部長）の神職が奉仕。まづ大祓詞を奏上したのち、修祓、招霊の儀、献饌、祭詞奏上と進められ、斎主の岩崎支部長が玉串奉奠をおこなった。

引き続き安倍会長、亀岡偉民同慰霊祭実行委員会会長（前衆議院議員）、熊倉一巳同実行委員長、神政連議員懇の議員、神政連地方議員懇談会の府県議・市議、長曾我部会長、神社本庁統理（代理・吉田茂穂常務理事）、足立正之福島県神社庁長、高木仁神政連福島県本部長、立谷市長や地元の代表者、遺族代表はじめ地元住民らが玉串を奉って拝礼した。

神事に先立つ式辞では、震災で妻を失った熊倉実行委員会実行委員長が「今日を節目に亡くなられた方の心をしっかりと受け継ぎ、新たな復興へのスタートにしたい」と挨拶した。

神事後には、斎主の岩崎支部長が「今年の正月、天皇陛下には被災地・相馬の和歌を詠んでをられる。私たちはこの御製を心の拠り所として、雄々しく復興に向けて邁進していきたい」と挨拶。また、子息が消防団員として殉じた遺族代表の阿部洋子氏も「あれから一年、それぞれに未だ消えない心の痛みと、家族を亡くした悲しさを抱へてあるが、慰霊祭により息子のみならず多くの御霊に私たちの心が届くことと思ふ。今後、残された私たちは、互ひに支へ合ひ、励まし合ひながら、ひとり一人ができることから行動し、少しずつ前に進まうと思ふ」と挨拶した。

こののち、地元の代表者らから復興に向けた陳情を聴く連絡会が開かれた。

被災地の思ひ 神政連議員懇へ

神道政治連盟国会議員懇談会が執りおこなった東日本大震災物故者慰霊祭に続き開かれた連絡会ではまづ、主催者を代表し、安倍会長と長曾我部会長が挨拶し

た。

安倍会長は、慰霊祭齋行に際する相馬市・福島県の関係者の協力に感謝の辞を述べた上で、「まだまだ復興は進んでいないが、雄々しく立ち上がった皆さんと手を携へ、私たちも政治家として全力を尽くしてまゐる決意」「みんなで手を合はせ、ともに祈る国、それが日本。天皇陛下とともに手を合はせ、みんなで国民の幸せを祈る国、それが日本。この国柄とともに私たちは日本を再建させていきたい」と述べた。

また、長曾我部会長は、「私たちは神々に仕へる気持ちをこの地の皆様に捧げ、それぞれの家族が一日も早く日々の生活に戻られ、日常あった普通の地域社会となるやう協力することを誓ふ」と挨拶した。

続いて来賓を代表し、足立庁長と立谷市長が登壇。足立庁長は、大震災により伝統文化や歴史さへも失はれようとしてゐることに警鐘を鳴らし、「ふるさとの文化を誇る心、その文化をますます高めながら子孫に伝えていく、その使命感がなければ、人間は、民族は、日本人は生きていけない」と述べ、「今、生きてゐるものの務めを、命長らへたものの責務を、果たし続けてまゐる所存」と語った。

立谷市長は地域復興についての要望を開陳。主要な農業・漁業の第一次産業において越えられない壁として、放射能対策を挙げ、基準となる数値を明確にすることを要望。また、被災した鉄道の路線を山側に移す計画に触れ、仙台に通学できない学生の実状などを示し、直通高速バスなどの代替策を講ずべき必要を訴へた。

伝統文化に喪失の危機

引き続き、佐藤満相馬市議会議長、目黒静雄新地町議会議長、荒井宏美相馬商工会議所会頭、遠藤祐輔 J A そうま代表理事専務、丹治正博福島県神社庁副庁長がそれぞれ復興に向けた陳情をおこなった。

佐藤議長は、交通網の復旧に向けた放射性物質の除染の推進、被災した土地の買上げの一元化及び推進を要望。目黒議長も、土地の買上げと鉄道の復旧について、速やかに実現できる方途を講じるやう訴へた。荒井会頭は東京電力福島第一原子力発電所周辺において、一時帰宅で生活が再建できさうにない現状を目の当たりにした人から、土地の買上げや町の移転を求める声が多いことを紹介した。遠藤代表理事専務は、除染と塩害対策を進め安心して農業ができる環境づくりを要望するとともに、環太平洋連携協定（TPP）への不参加を訴へた。

県神社庁で震災対策にあたる丹治副庁長は、原発事故に伴ふ避難地域内の伝統文化が消滅の危機にあることを説明。警戒区域内二百三十九社では、神社と避難住民との絆が分たれてゐることを指摘し、その原因として、個人情報保護によ

り連絡手段が絶たれ、祭りに関する情報の共有や神符等の頒布が不可能になって
みる現状を挙げた。さらに、憲法の政教分離原則を厳格に守るあまり貴重な伝統
文化を絶やすことは「地域の絆を消し去ることを意味する」と述べ、「真の意味で
の地域復興・復旧は不可能といはざるを得ない」と指摘。文化財指定の有無に関
はらない保護・継承が必要であることを強調し、国の主導が不可欠との認識を示
して、伝統文化保護のプロジェクトをおこなふやう求めた。

物故者慰霊祭に参列した国会議員は次の通り（敬称略）。

安倍晋三、塩崎恭久、浜田靖一、金子恭之、江藤拓、稲田朋美、城内実、衛藤
晟一、岩城光英、中川雅治、山谷えり子、有村治子、松下新平、上野通子、森田
高、森まさこ、荒井広幸、塩谷立（代理）、西村康稔（代理）、佐藤正久（代理）、
丸川珠代（代理）。

【平成 24 年 3 月 19 日 神社新報掲載記事】